校友時報
第61号
発行所
秋田県立船川高等學校新聞部
電話 254番
編集人兼印刷人 小野孝則
印刷所 大勝堂印刷所

文房具の店……
キムラヤ
畠町 電 一三六二

本年度豫算決定なる

三日間に亘り慎重審議

各部大幅に減額される

請求額二百万圓を上る

一年間のクラブ活動の原案となる予算の審議会は去る四月九日、十日、十一日の三日間に亘り十八番教室に於て企画部原案に対し審議された。

この原案の作成迄には各部間会議、部長会議二回審議されている。本年度の各部請求額は一百十一万円、これに対し収入総額は九十二万円だから二百を超過した初日の九日の審議会では、硬式野球部の原案合決、続く翌十日、文藝部、ブラスバンド部の原案が否決され、その上今年は昨年に比し職員会が四万円程減額、ブラスバンドの部員増入により各部に相当しわがよっている。審議会を通過した原案は去る四月二十三日の生徒総会に於て全面的に可決された。

昭和三十一年度決算

【収入の部】	927.150
【支出の部】	927.145
総務部	415.440
企画部	△409.230
応援部	6.210
文化部	141.915
辨論部	4.650
科学部	△16.400
音楽部	△18.500
新聞部	14.635
演劇部	△43.200
美術部	10.360
運動部	369.790
硬式野球部	△106.800
歌野球部	20.350
排球部	39.240
卓球部	15.450
籐技部	20.610
柔道部	42.640
体操部	21.000
剣道部	△35.200
スキー部	12.850
庭球部	△33.260
籠球部	△22.390
ブラスバンド部	12.610

△は昨年より増額

【業和田企画部長談】

今年度の予算は、昨年度に比べ一部のクラブを除いて大幅に減っている。これ昨年度は八万円程減額があったから今年度は四万円程に減ったからである。今年度各部の予算積総額は二百十一万円、これに対して収入総額は九十二万円であった。従って各部の割当ではとんと半減して無理して行なった予算決定も終止符を打ったわけである。

分減額の見当で作成した原案作成に当って先づ昨年の予算内容と単価、数量、品質等と今年の各部の要求を細目にわたって検討し、必要且個人負担の出来ないと思われるものをとりあげた作成中困った点は、一部の部で必要以上の物を要求している事である。

今年度の予算の特徴は、各部の県外、県内遠征費の要求を全面的に認めて企画部予算に於た事である。これによって各部の遠征の時に団体割引などで費用の倹約を計った。原案作成中最も大きく削減したのは体操部のマット(二万五千円)スキー部の合宿費(一万七千円)である。これ等は要請の未マットは教えとして学校から、合宿費は三泊を二泊に切りつめた。顧問会議部長会議の際にも会費の値上げ教師を出来るだけ利用してほしい然し教師も人間である。得手不得手個性がある。学業は勿論のことと思う点は出来るだけ汲みとって君等の伸びる報とされたい。担任を信頼してほしい。教師は一応君等の持つ悩みと苦しみの道を通り越して来た人で、一日の長がある。必要なときには何んでも相談してほしい。結局君等の学校生活の締めくくりをつける大きな役割を果すものは担任である。

無意味な反抗は止めねばならぬ。

（三一・五・七）

小山善一　教諭　□

隨想

学生は純でありたい

礼儀と作法は互を結ぶ

新聞部の求めに応じ編集部の係として、他人様から得たこと、自分で感じたことを二、三まとめて次に掲げる。

吾人の心身を伸ばすため、徳育、知育、体育の三方面があって、どちらに偏してもいけない。行いを正し、知識を収め、身体の健全な発育を計って他日社会に立つ時充分な活動をするための備が必要である。青年は夢を持たねばならぬ。行手の定まらぬ行路には横道が多い。夢を持つ人は額に汗しても常に楽しい。

多数の強さはその和にある。一人のなす業は一人の十倍ではない。それより遠かに大きいこともある。そして統一小さいこともある。

関係ない事をしていては欠課と変る所がない。正当な理由なく欠課する学生は自ら学生たることを放棄しているものである。

学生は純でありたい。人としてなるべく本道に帰らねばならない。

学生は純でありたい。人としてなるべく本道に帰らねばならない。

学校を欠席してその教育効果は期待出来ない。又教室に顔をつらねても空な心で教師と通りなる授業をしてはならない。

礼儀と作法は互を結ぶ約束である。日本人には日本人の間に生まれた礼儀作法がある。

両親から、教師から、友から時に折にふれて足りている礼儀作法を学ばねばならない。

学校を欠席してその教育効果は期待出来ない。又教室に顔をつらねても空な心で教師と通りなる授業

円熟感があったから今年度は四万円程に減ったからである。

今年度各部の予算積総額は二百十一万円、これに対して収入総額は九十二万円であった。従って各部の割当ではとんと半減して無理して行なった予算決定も終止符を打ったわけである。

【業和田企画部長談】

今年度の予算は、昨年度に比べ一部のクラブを除いて大幅に減っている。これ昨年度は八万

新陣容で発足

委員長、壓倒的に若狭君

会秋生徒の注目の的である昭和三十一年度前期生徒会正副委員長選挙は、去る三月十六日に委員長三月十七日には副委員長選挙がそれぞれ行われた。しかし立候補者が若狭勉君唯一人なので各H.R.より委員長候補者を一名ずつ計十五人選出した。そして児玉淳君(二E)、須田忠君(二C)、小野孝則君(一A)、栗原俊二君(二A)、秋田浩昌君(二B)の五君が委員長候補者として全校生徒の投票の上決定。以上の五君と立候補者若狭君により三月十六日前機学校がいで拍負発表が行われた。開票の結果若狭勉君が三九二票、次点の児玉淳君の四七票を大きく引離し当選した。又副委員長選挙は委員長選挙の翌日三月十七日に行われて立候補者工藤繁君(二D)が二四一票、次点槻谷雄君(二C)が一〇〇票で、工藤繁君が当選した。例回ならば選挙が数回行われるのが恒だったが、今回は一回の投票で即日決定した。これは各生徒がそれだけ生徒会に関心を持っている証拠であると言えよう。委員長は学校生活後にたに生徒会役員に次の方々を選出した。

☆総務部

企画部　栗和田陽、大川和茂

会計部　原田征行、柴田正臣

風紀部　智田　斉、佐藤　博

厚生部　竹内　斉、沼川優子

応援部　若狭　勉、小山善彦

書記　石田洋三　佐藤公昭

（上は部長、下は副部長）

【若狭委員長談】

私が諸君の信任を得て委員長として就任することになりましたことは私の責任と光栄とするところであります。委員長職務にあたって私の抱負を遂行し、生徒会の向上発展のため全力を尽さなければならないと思っています。

相澤先生御転任

校史に輝く御功績

波瀾多き三年の長い間本校の発展と共に歩みを進めて来られた一日附県定期教員移動で能代北高校に御転任なされた。今回の御転任については四月一日迄秋沢先生及び加護校長先生にも何の通達もない県の一方的なものだった。先生は到日本生物教育会理事、秋田県生物学会理事の要職をまた在校中は本校第一線教諭と級担の御活躍された。先生は理科の主任として生物の御尊敬せられ、ククブランクトンの御研究では特に著名である。二十八年には水産庁の調査船でアリューシャン沖まで海洋調査に行かれ、その時の文献は全国に稀な貴重のものと注目され、業績には多大な貢献をなしている。又終戦間も無くの二十二年本校校舎再建運動に先生が主唱し御奮闘せられ、その御功績は今以つて校史の上に一大史として輝いている。

体育館建設見合せか

當市の大火の波紋

先に本紙で詳細に述べた体育館建設の問題は、その後県会等に廻され審議されていたが、最終案の作成にはまだこぎつけられていなかった。その難点の大きな因を成していたのは費金の調達だった。この費金の捻出困難な為、今まで県会でも悩まされのびーと持ち越された。本県では赤字財政の押め合せに精一杯の状態であった。

その矢先、本市で二百余の大火災が有り、いよいよ県財政は苦しくなったわけである。この為体育館建設も見送りされた様子である。当初の計画の見通しがあれ程順調の意見も出たが、据え置き値上げ等の事情を考え見合せた。

このようにして三十一年度予算は成立したが、各部共割当った予算を最大限に活用して一層活躍される事を望む。

ブラス・バンド大活躍す

去る三月二十日の能代市大火の惨禍にあい大きな痛手を負った罹災者、救いの手をのべようと、本校ブラスバンド部は慰問会と街頭募金と春季休暇を利用して活躍した。部員の中にも罹災者も私事をなげうち而の為に三月二十二日学校へ集合し早急にプランを立て自主的行動に移った。三月二十六日は能代中学校で演奏会の後、街頭へと繰り出した。そしてこの日は心優しい町民から三千十二円の義捐金が寄られた。二十七日は八森中学校へ巡回し同町から一千八百七十円寄られた。続く三日目の二十八日は午前中に東能代中学校、午後から同能代小学校へとまさに強行軍だったが両校合わせ一千五百五十三円の義捐金を完ていたが

でありながら今年となってお流れとなったわけだがスポーツ能力を奮い起こす為、又被害者に話を持ちかけるではないかという力強い声も上っている。

【校長先生の話】

今迄消りに行くと、今年中に建てる事になっていたが、現在の様子結果となってはそれすら望めない。どうなるか今の所はっきりした事は分らない。いずれ秋田市に行き、知事又は各役員に会うつもりです。又市長さん始め県関係会の人々と話合ってはっきりした事実は後ほどお伝えしたいと思います。

点

生徒一丸

▼春たけなわの今日この頃ようやく新入生も緊張に慣れてきた。屋にグランドの一つの賑わい。今年は二三名の新入生が能高の門をくぐった。

▼彼等が能代高校に入学して来た時第一印象新聞部主催の座談会からひっつてみると「クラブ活動が活発である二学校が所れている」等などがあった。▼クラブ活動の活発さにはさすがに心奪打たれたらしい。それで今他も部に入ってみるぞと意気込んだらしい。新聞部などでは三十名程の新入部員が居る。我々一年の当時とは各部とも活発さがとんと違っている。▼前校長の小林道一先生は「学問とスポーツは両立するというとをモットーとしていたが、クラブ活動をしている者は悪非とも両立させる様に。主任との関係をわきまえてかかることだ。▼校風が判ると云われる応援歌の練習が他日行われたが、もう二、三分だけ放の時間を与えて欲しいという声が校内で聞かれる「腹が減っては戦が出来ない」というわけか。▼今年は生徒必携が一年生に配っていない為、構堂の黒板に書かれた応援歌を写すのに大わらわだ。幹部の者はプリントして手渡すぐらいの親切さ位はあって欲しいと思う。たゞドナルクだけが上級生の特権ではあるまい▼予算も決定されたが、何しろ絶対量の少ない生徒会費だから各部も相当容易でない。その上プラスバンドの独立になっているのだからひゞが入り益々苦しくなっている